

## 平成23年度共同研究の概要（成果報告書抜粋）

**研究種目：**重点研究

**研究代表者：**大槻 恭一（九州大学 大学院農学研究院・教授）

**研究分担者：**北野 雅治（九州大学農学研究院・教授）、多田内 修（九州大学農学研究院・教授）、鹿島 薫（九州大学理学研究院・准教授）、馬 永清（中国科学院水利部水土保持研究所・教授）、館野 隆之輔（鹿児島大学農学部・准教授）、安福 規之（九州大学工学研究院・教授）、佐藤 廉也（九州大学比較文化社会学研究院・准教授）、全 槿雨（江原大学校山林環境科学大学・教授）

**研究題目（和文）：**

中国黄土高原寧夏地区における日中韓共同砂漠化防止研究拠点の形成

**研究概要（和文）：**

### (1) 九州大学学内における砂漠化防止研究ネットワーク構築

九州大学内で砂漠化防止研究を行っている研究者を発掘し、九州大学東アジア環境研究機構砂漠化防止研究グループを拡大した（4 研究院 6 名）。

### (2) 国内における砂漠化防止研究ネットワークの組織的展開

東アジア環境研究機構は、砂漠化防止グループを中心に 10 年計画で砂漠化防止研究を開始した。乾燥地研究センターは日本における中核的乾燥地研究拠点であるが、今後さらに乾燥地研究者コミュニティを広げるためには、同センターを中核とした乾燥地研究ネットワークを大学等との組織連携ネットワークに拡大することが不可欠である。東アジア環境研究機構砂漠化防止グループが設置されたのを契機に、以下のような活動を通じて日本国内における組織的な砂漠化防止研究ネットワークの形成を目指す：

- 1) 乾燥地研究センターと砂漠化対処条約第 10 回締約国際会議への共同出展
- 2) 乾燥地研究センターと JR 博多シティで一般市民を対象とした砂漠化防止イベント開催
- 3) 乾燥地研究センターと学術交流協定を締結

### (3) 東アジアの砂漠化防止研究機関との連携研究の展開

乾燥地研究センターは、拠点大学交流事業により中国陝西省の神木および延安を対象として砂漠化防止研究拠点を形成した。しかし、中国の乾燥地は広大で、その自然・社会環境は非常に多様であるため、さらに多くの研究対象地を確保することが必要である。そこで、乾燥地研究センター、中国科学院水利部水土保持研究所と共同して研究サイトを探索し、寧夏回族自治区固原に砂漠化防止研究拠点を形成することを決め、2011 年秋より畑地土壌環境等の計測を開始した。また、韓国江原大学校山林環境科学大学の砂漠化防止研究者を共同研究発表会に招へいし、同拠点における日中韓共同砂漠化防止研究を展開することを決めた。